

1 大田原市の概要

大田原市は、栃木県の北東部に位置し、松尾芭蕉「奥の細道」と那須与一の郷として知られており、市の中央を流れる那珂川や八溝山系の里山など自然豊かな地域です。

平成29年度の学校数は、小学校20校、中学校9校ですが、平成30年度には、親園中学校と佐久山中学校が合併する予定です。現在、大規模校は小学校1校、中学校1校ですが、適正規模校が少なく、ほとんどの学校が小規模校です。1小1中の校区が一つ、2小1中の校区が六つ、3小1中の校区が一つ、4小1中の校区が一つで、モデル地区は若草中学校区（1小1中）、金田北中学校区（2小1中）の2地区となっております。

2 小中一貫教育に関する本市のこれまでの取組

平成20年度より、中学校進学後の不登校の状況と学習意欲への課題に対応するため、毎年1中学校区を小中一貫（連携）研究地区として指定し、9年間を通した一貫した教育実践について研究を進めてきました。一定の成果は見られたものの、課題が改善されたとはいえない状況でした。

3 小中一貫教育推進事業における取組

(1) 導入の背景

平成26年度に文部科学大臣が中央教育審議会に諮問したことを受け、平成27年度に大田原市小中一貫教育検討委員会を設置し、平成20年度より進めてきた研究の課題改善を含めた大田原市小中一貫教育基本方針を策定し、全市体制で小中一貫教育を推進していくこととしました。

(2) 本市の小中一貫教育の特徴

本市は、学校規模や中学校区の構成等が多様であるため、各中学校区で子どもたちの実態や地域の実情に即した小中一貫教育を展開していくことを重要視しています。それを踏まえた上で、9年間の義務教育の中で系統性のある教育課程を展開し、子どもたちの学力向上・人間性育成等をねらいとしています。

平成29年度からモデル地区2地区を開校させ、授業公開・研究実践発表等を実施し、教職員の研修機会を設けました。その成果や課題を踏まえた上で、平成30年度から全中学校区においてコミュニティ・スクールと一体化させて進めていきます。

(3) 具体的な取組内容

ア 大田原市小中一貫教育合同研修会の開催

市内小中学校の教職員に対して、8月には文部科学省の貝ノ瀬滋視学委員より小中一貫教育の充実に向け、12月には東京学芸大学の細川太輔准教授から、小中一貫教育の視点を踏まえた国語科における授業づくりについて講話をいただきました。



【第2回大田原市小中一貫教育合同研修会】

イ 小中一貫教育授業研修会

市内小・中学校合同の授業研究会に、宇都宮大学の松本敏教授を講師として迎え、小・中学校の教職員の協働や授業力の向上について研修を実施しました。小・中学校の教職員が本音で話し合うことの重要性について指導助言をいただきました。

ウ 先進校視察

コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を実践している東京都三鷹市立第四中学校に教務主任29名と市教育委員会指導主事2名が、視察を実施しました。

エ 小中一貫教育ガイドブック作成

市内小・中学校の教職員に対して、本市のガイドブックを作成し配布しました。

4 モデル地区の取組

(1) 若草中学校区における取組（大田原小学校・若草中学校）

ア 校区の概要

若草中学校と大田原小学校は1小1中の校区となっています。大田原小学校の児童は、原則として全員が若草中学校に進学します。

イ 「確かな学力の向上」に向けて

三つの取組である学力向上対策事業、英語教育の充実、教員の資質・能力向上を重点としながら、小中一貫教育の充実を図りました。ICT機器を効果的に活用し、単元や題材のまとまりで実現できる「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業改善を行いました。

特に力を入れた取組として、算数・英語・体育における中学校教員の乗り入れ授業や、T・Tの実施が挙げられます。専門の先生に教わることで、児童が各教科のおもしろさに気付く様子が見られました。また、児童生徒合同の宿泊学習(ENGLISH DAY)や夏季合同学習会を開催するなど、様々な取組を実施することで、児童生徒の学習意欲の向上や知識・技能の定着などの成果が見られました。



【モデル地区大田原小学校公開授業研修会】



【小中学校合同宿泊学習】

ウ 成果と今後の展望

小・中学校の校長間の意思疎通の重みが増し、中学校区としてのビジョンが明確になりました。その結果、児童の学習意欲の向上や知識・技能の定着が成果として見えました。

今後は、さらに小・中学校の教職員が協働することで、各教科において授業力の向上が図られると考えられます。

(2) 金田北中学校区における取組（市野沢小学校・羽田小学校・金田北中学校）

ア 校区の概要

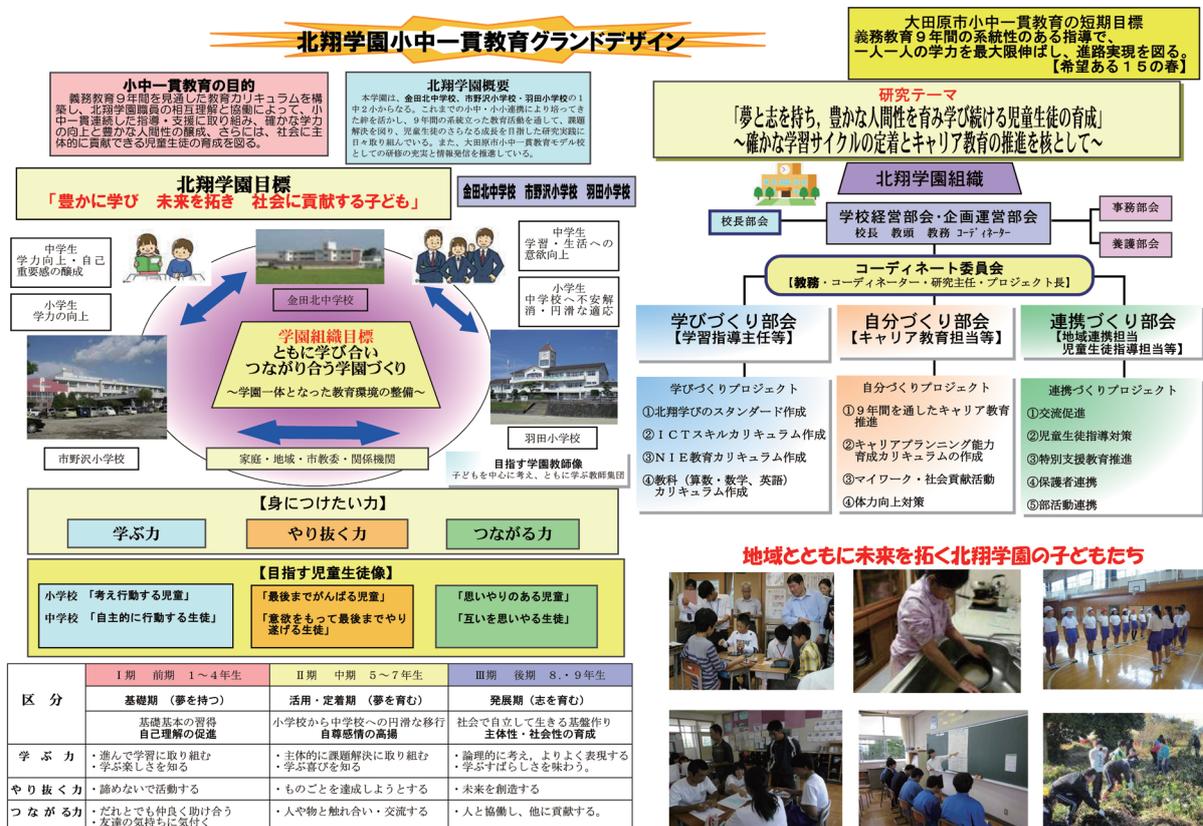
金田北中学校と市野沢小学校は隣接しており、羽田小学校は約5km離れたところにある2小1中の校区となっています。市野沢小学校と羽田小学校の児童は原則として全員が金田北中学校に進学します。

イ 「確かな学習サイクルの定着」と「キャリア教育の推進」を核として

適切なめあてと振り返りを重視した学習スタイルの共通理解や「北翔学びのスタンダード」を基にした授業と家庭学習のリンク等、確かな学力の定着を意識した取組を行いました。また、総合的な学習の時間の計画を見直し、継続的・段階的な指導を目指したキャリア教育の推進を図りました。総合的な学習の時間や学級活動の授業で、実際に3校の児童生徒が交流活動を行うことにより、児童から「学びの意欲が高まった」、「中学校の様子が分かり、役に立った」という感想が寄せられました。キャリア教育では9年間の系統性を持って教育できるカリキュラムを作成することができました。

ウ 成果と今後の展望

小・中学校間で魅力ある授業づくりについて積極的な対話が進み、3校の教職員間の協働意識が高まりました。各教科等やキャリア教育における9年間の学びの連続性を更に充実させることで、児童生徒の学力向上や豊かな人間性の育成につながると考えられます。



【北翔学園小中一貫教育グランドデザイン】

【小中学校教員による作業部会】

三つの部会「学びづくり部会」「自分づくり部会」「連携づくり部会」を設置し、それぞれの部会のプロジェクトについて議論を深めました。NIEカリキュラムの作成やキャリア教育の推進についてなど、初めは小・中学校の違いを感じることもありましたが、何度も顔を合わせることで、小・中学校の教員が本音で意見交流し、充実に向けて前向きに協働できるようになりました。



【モデル地区金田北中学校区教職員研修会】

【北翔学園研究実践発表】

市内小・中学校の教員を対象に授業公開と研究実践発表を行いました。国語、算数・数学、総合的な学習の時間、学級活動の授業を公開し、全体会では部会の実践についてポスターセッションを実施しました。

モデル地区以外の教員に対して、具体的な取組方法の共有ができました。



【モデル地区金田北中学校区公開授業研究会】

5 成果と課題

モデル地区を指定して進めたり先進校視察や研修会を実施したりすることで、平成30年度の全中学校区実施に向けて具体的な取組の理解が深まりました。校区の構成や取組の重点項目の違う二つのモデル地区を指定したことで、モデル地区以外の教職員が小中一貫教育の多様な具体例を知ることや、全職員で取り組むことの重要性を理解することなどができました。

1小1中から4小1中まで多様な校区のある本市であることから、来年度から実施する教職員が自中学校区の子どもの実態と地域の実情に合わせた小中一貫教育を丁寧に実施していく必要があります。

また、初めて小中一貫教育を導入することで生じてくる教職員の戸惑いへの対応や保護者・地域への周知について、市教育委員会も学校と丁寧に連携を図りながら長期的なビジョンをもって推進することが求められます。